

- 問1 1428年に近江（滋賀県）から始まり、京都や奈良など広範囲に広がった「正長の徳政一揆」に関する説明として、当時の社会状況を正しく述べているものはどれですか。（2020年 静岡県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---------------------------------------|---|--|
| 1. 織田信長が楽市・楽座を導入したことに反対した商人が、寺院と協力して起こした | 2. キリスト教徒が団結し、重い年貢を課す領主に対して武器を持って反抗した | 3. 元寇による軍役の負担に耐えきれなくなった御家人たちが、借金の免除を求めて蜂起した | 4. 幕府が公式に徳政令を出さなかったため、人々は土倉などを襲って自ら借金証文を破棄した |
|--|---------------------------------------|---|--|
- 問2 「二条河原の落書」には、当時の京都で「繪旨（りんじ）」が乱発され、社会が混乱している様子が記されています。この「繪旨」とはどのようなものですか。その性質として正しい説明を選びなさい。（2021年 和歌山県公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------------------------|-----------------------------|-------------------------------|---------------------------|
| 1. 平氏が貴族の反乱を抑えるために出した軍事的な指令 | 2. 鎌倉幕府の執権が武士の土地裁判のために定めた法律 | 3. 後醍醐天皇が自らの意向を直接伝えるために出した命令書 | 4. 室町幕府が借金を帳消しにするために出した法令 |
|-----------------------------|-----------------------------|-------------------------------|---------------------------|
- 問3 室町時代に栄えた東山文化では、現代の日本文化に繋がる多くの伝統が生まれました。その中で、雪舟が成し遂げた「水墨画」における歴史的な功績として最も適切な説明を選びなさい。（2017年 香川県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 中国の模倣であった水墨画を、日本の風景や感性に合わせた独自の芸術へと高めた | 2. 西洋の遠近法をいち早く取り入れ、日本の伝統的な風景を写実的に描く技法を確立した | 3. 庶民の風俗を生き生きと描く浮世絵を創始し、木版画による多色刷りの技術を広めた | 4. 金箔をふんだんに使用した豪華な障壁画を制作し、武家社会の権威を象徴させた |
|--|--|---|---|
- 問4 室町幕府の三代将軍である足利義満が、明との間で始めた貿易において、当時、東シナ海などで略奪行為を行っていた海賊（倭寇）と、幕府が認めた正式な貿易船を厳格に区別するために用いられた符札の名称を答えなさい。（2019年 和歌山県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|-------|-------|--------|
| 1. 御教書 | 2. 勘合 | 3. 割符 | 4. 朱印状 |
|--------|-------|-------|--------|
- 問5 室町幕府の第八代将軍であり、京都の東山に慈照寺（銀閣）を建立したことで知られ、簡素で落ち着いた文化を育んだ人物は誰ですか。（2015年 山口県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 足利義政 | 2. 足利義持 | 3. 足利尊氏 | 4. 足利義満 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問6 室町時代に全国へと普及した、一年の間に同じ田畑で米と麦のように異なる作物を交互に栽培する農法を何と呼ぶか、最も適切なものを選びなさい。（2022年 岐阜県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|--------|--------|-------|
| 1. 転作 | 2. 二期作 | 3. 二毛作 | 4. 輪作 |
|-------|--------|--------|-------|
- 問7 足利義満によって始められた日明貿易で、「勘合」と呼ばれる札が用いられた理由として、当時の時代背景をふまえた最も適切な説明はどれですか。（2015年 佐賀県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------|
| 1. 有力な守護大名が独自に行っていた私貿易を、幕府が完全に管理・独占するため | 2. キリスト教の布教を目的とする宣教師の密航を阻止するため | 3. 元寇による被害に対する賠償金の支払いを、明側に証明させるため | 4. 東アジアの海域で活動していた倭寇と、正規の貿易船を区別するため |
|---|--------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------|
- 問8 室町時代に惣（惣村）と呼ばれる農民の自治組織が作られ、農民たちが一致団結して自ら村を運営するようになった背景や目的として、最も適切な説明を選びなさい。（2025年 熊本県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|---------------------------------------|
| 1. 大名間の貿易を推進し、海外から輸入された品物を村の中で公平に分配するため。 | 2. 幕府からの強い要請により、農民同士で相互監視を行わせて年貢の未納を防ぐため。 | 3. 農業技術の発達に伴い用水の確保や配分が重要になり、戦乱から村を守る必要も高まったため。 | 4. 領主が強制的に農民を移住させ、新しい開墾地を一括して管理させるため。 |
|--|---|--|---------------------------------------|
- 問9 室町幕府の三代将軍である足利義満が、明との間で「勘合」と呼ばれる札を用いた貿易（勘合貿易）を開始した最大の理由として適切な説明はどれですか。（2026年 山形県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------------------------------------|---------------------------------|-----------------------------------|--|
| 1. 正式な貿易船と、沿岸部で略奪を行う海賊集団である倭寇を区別するため | 2. モンゴル帝国の侵攻である元寇に備えて、軍事同盟を結ぶため | 3. キリスト教の布教を許可する代わりに、鉄砲や火薬を輸入するため | 4. 平清盛が行った日宋貿易を引き継ぎ、博多を拠点に大陸との交流を深めるため |
|--------------------------------------|---------------------------------|-----------------------------------|--|
- 問10 室町時代、足利義満の保護を受け、父である観阿弥とともに猿楽を洗練させ、舞台芸術としての「能」を大成させた人物は誰ですか。（2023年 大阪府公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|-----------|-------|--------|
| 1. 観阿弥 | 2. 近松門左衛門 | 3. 雪舟 | 4. 世阿弥 |
|--------|-----------|-------|--------|
- 問11 鎌倉時代から室町時代にかけて、交通の要所や寺社の門前などで、月に3回などの特定の日に開かれた市場を何と呼びますか。貨幣経済の普及とともに各地で発達したこの市場の名称として正しいものを選択してください。（2022年 神奈川県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|--------|------|-------|
| 1. 楽市 | 2. 三斎市 | 3. 座 | 4. 問丸 |
|-------|--------|------|-------|
- 問12 室町時代、それまでの「猿楽」という芸能をもとに、観阿弥・世阿弥の親子が足利義満などの幕府の保護を受けて大成させた、日本を代表する舞台芸術を選びなさい。（2024年 群馬県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------|-------|------|--------|
| 1. 人形浄瑠璃 | 2. 落語 | 3. 能 | 4. 歌舞伎 |
|----------|-------|------|--------|
- 問13 鎌倉時代から室町時代にかけて、交通の要所に集まり、馬の背に荷物を載せて物資の運送を専門に行った業者を何と呼びますか。当時の生活の様子を描いた絵巻物などでは、大きな荷を積んだ馬を引いて歩く人々の姿として表現されています。（2026年 神奈川県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|---------|-------|-------|
| 1. 馬借 | 2. 座の商人 | 3. 飛脚 | 4. 問丸 |
|-------|---------|-------|-------|
- 問14 室町時代に近畿地方を中心に形成された、有力な農民たちによる自治的な村の組織として正しい名称を選びなさい。（2024年 山口県公立入試 類似）
- | | | | |
|------|------|------|--------|
| 1. 座 | 2. 惣 | 3. 問 | 4. 五人組 |
|------|------|------|--------|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 幕府が公式に徳政令を出さなかったため、人々は土倉などを襲って自ら借金証文を破棄した	正長の徳政一揆では、代がわりの徳政（将軍が交代する際の債務免除）などを期待した民衆が、幕府がなかなか徳政令を出さないことにしびれを切らし、自分たちで土倉や酒屋、寺院を襲撃しました。当時の奈良の大乗院日記などの記録には、一揆の勢いが凄まじく、日本が始まって以来の出来事であるといった記述が残されています。結果として、幕府は公式な徳政令を出せませんでした。人々は実力で借金を帳消しにしました。
問2	答え 3 後醍醐天皇が自らの意向を直接伝えるために出した命令書	建武の新政において、後醍醐天皇はそれまでの先例や慣習を否定し、すべての物事を天皇の直接の意志である「綸旨」によって決定しようとしていました。しかし、土地の所有権などをめぐって内容の矛盾する綸旨が次々と出されたことが、武士たちの大きな混乱と反感を買う原因となりました。
問3	答え 1 中国の模倣であった水墨画を、日本の風景や感性に合わせた独自の芸術へと高めた	雪舟が登場するまでの日本の水墨画は、中国の宋や元の画風を模倣する段階にありました。雪舟は実際に明へ渡って本場の技術を吸収した上で、日本の山河にふさわしい構図や、太く力強い輪郭線を用いる独自の画風を確立しました。これが、日本における水墨画の自立と完成と言われています。
問4	答え 2 勘合	足利義満は明の皇帝から日本国王として認められ、日明貿易を開始しました。当時、沿岸部を荒らす倭寇の存在が国際問題となっており、明側からその取り締まりを強く求められていました。そこで、中央に「本」という文字などが書かれた紙を左右半分に切り、日本側と明側でそれぞれ保管し、入港時にそれらを照合することで、正式な貿易船であることを証明する仕組みが導入されました。
問5	答え 1 足利義政	彼は政治の実権からは距離を置くようになりましたが、銀閣を拠点に茶の湯や生け花、書院造といった後の日本文化の源流となる東山文化を大成させました。武家の力強さと禅宗の精神性が融合した、わび・さびを基調とする文化の保護者として歴史に名を残しています。
問6	答え 3 二毛作	鎌倉時代に西日本から始まり、室町時代に全国へと広がったこの農法は、夏に米を、冬に麦を栽培する形式が一般的です。一年に同じ作物を2回収穫する「二期作」とは、栽培する作物の種類が異なる点で区別されます。
問7	答え 4 東アジアの海域で活動していた倭寇と、正規の貿易船を区別するため	当時、朝鮮半島や中国の沿岸部では、倭寇という海賊集団が激しい活動を行っており、明の政府は日本側にその取り締まりを強く求めています。これに対し、足利義満は明との正式な国交を樹立。明から与えられた「勘合」を所持する船だけを正規の貿易船として認める仕組みを作ることで、倭寇による密貿易や略奪を排除し、国家間の安定した貿易を実現しようとしていました。
問8	答え 3 農業技術の発達に伴い用水の確保や配分が重要になり、戦乱から村を守る必要も高まったため。	室町時代には農業技術が向上して二毛作などが広まり、水の管理や共同作業の重要性が増しました。また、武士同士の争いから自分たちの村や暮らしを自衛する必要があったことも、農民が団結して自治を行う要因となりました。
問9	答え 1 正式な貿易船と、沿岸部で略奪を行う海賊集団である倭寇を区別するため	当時の中国沿岸では倭寇による被害が激化しており、明は日本に対して海賊の取り締まりを求めました。足利義満はこれに応じ、「日本国王」として明の冊封体制に入ることによって正式な貿易を開始しました。その際、倭寇（海賊船）と正式な貿易船を見分けるために、割印を押した「勘合」という札を持参させる仕組みを作りました。
問10	答え 4 世阿弥	室町幕府の第3代将軍である足利義満は、北山文化の時期に多くの文化人を保護しました。その中で世阿弥は、父の観阿弥とともにそれまでの猿楽（田楽や猿楽などの庶民的な芸能）を洗練された歌舞劇へと発展させ、現代まで続く「能」を完成させました。観阿弥は世阿弥の父、雪舟は室町時代の水墨画家、近松門左衛門は江戸時代の人形浄瑠璃の作者です。
問11	答え 2 三斎市	中世日本では、交通の利便性が高い場所や人が集まる寺社の前で、日にちを決めて市場が開かれるようになりました。当初は月に3回開かれる「三斎市」が一般的でしたが、経済がさらに活性化した室町時代後半には、月に6回開かれる「六斎市」へと発展しました。これにより、地方の特産物や手工業品が貨幣を通じて広く流通するようになりました。
問12	答え 3 能	鎌倉時代から南北朝時代にかけて行われていた猿楽などの民衆芸能を、室町時代に観阿弥とその息子の世阿弥が芸術性の高い舞台へと高めました。足利義満が将軍の厚い保護を受けたことで、武士の教養としての地位を確立しました。なお、歌舞伎や人形浄瑠璃は江戸時代に大きく発展した文化です。
問13	答え 1 馬借	中世の日本において、馬を利用して物資を運搬することを職業とした人々を馬借と呼びます。彼らは港（津）や関所、宿場といった交通の要点に拠点を置き、陸上交通における流通の主役として活動しました。なお、問丸は港湾での物資保管や中継を行う業者であり、飛脚は主に江戸時代に発達した通信制度を指します。
問14	答え 2 惣	室町時代には、農民の自立性が高まり、近畿地方を中心に「惣（惣村）」と呼ばれる自治組織が作られました。有力な農民が中心となり、村の重要事項を決めるための会議である「寄合」を開いて運営されました。「座」は同業者の組合、「問（問丸）」は輸送や委託販売を行う業者、「五人組」は江戸時代に整備された相互監視と連帯責任の制度です。